

一度は見ておきたい重要文化財シリーズ

滋賀の旅編
その2



今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ・滋賀の旅編」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔を紹介し、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目で愉しみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

少菩提寺跡 石造多宝塔（滋賀県湖南市菩提寺）

少菩提寺は、興福寺の別院として天平3年(731年)に良弁(ろうべん/奈良時代の華嚴宗の僧。東大寺を開いた。)により建立されました。

聖武天皇以後、歴代天皇の勅願所(時の天皇や上皇の勅命により、鎮護国家・玉体安穩などを祈願する神社・寺院)となっていましたが、元亀元年(1570年)に、織田信長と戦って敗残した六角氏の兵により寺院が焼き討ちにされ、廃寺となり、今に至っています。



県道27号線沿いには菩提寺集落が建ち並び、民家脇の小道を山手に少し登ると右手に大きい三体地蔵が見えてきます。その左手にある高台に、竹林を背にすくっと建った多宝塔があります。



多宝塔とは

宝塔は笠が(屋根)が一重なのに対し、多宝塔は二重になっています。

木造建築の多宝塔はかなり多く残されていますが、石塔としての多宝塔は少なく貴重なものです。

特 徴

花崗岩製で、総高約4.5m。新しく造られたと思われる基壇の上に建てられています。

基壇上には、広く低い基礎部があり、基礎を囲むように室町時代後期のものとされる多くの小石仏が置かれています。

基礎の上には平石が南北に置かれ、少し背の高い初層軸部、初層部屋根があり、その上部は木造多宝塔を模した造りになっています。



歴 史

基礎西面、基礎上部塔身北面に「仁治二年(1241年)辛丑七日」の造立銘がある鎌倉時代の多宝塔です。銘のある多宝塔は全国的にも数が少なく、形も珍しい種類となっています。

基礎上部塔身北面には「願主僧良善、施主日置氏(へきし)女(むすめ)」と刻まれており、豪族の日置氏の女(むすめ)が施主となり、この石塔を造立したとされています。

1961年3月23日に国の重要文化財に指定されました。



交通アクセス

〈鉄 道〉JR草津線・石部駅から車で10分
JR草津線・甲西駅から車で15分

周辺の観光情報

少菩提寺跡の背後にある菩提寺山からは、近江富士(おうみふじ)として有名な三上山(みかみやま)(標高432m)が眼の前にせまります。遠くは琵琶湖まで見渡せて、非常に眺めのよいところです。

三上山の山麓には御上(みかみ)神社があります。祭神は天御影之神(あめのみかげのかみ)で、この神様が三上山に降臨したのを祀ったのが始まりといわれています。

本殿は国宝に、楼門・拝殿は国の重要文化財に指定されるなど、歴史的価値が高く、深い老樹の木立に囲まれた境内は、長い信仰と歴史を物語るのにふさわしい威厳と風格を漂わせています。

歴 史

今回は、滋賀県にある少菩提寺跡石造多宝塔をご紹介します。

多宝塔は平安時代に密教が最澄・空海によって伝えられた後に出現した仏塔です。天台宗では、「法華経(ほけきょう)」と密教で説く2つの世界の1つ、胎蔵界(たいぞうかい)の五仏を祀った多宝塔

を建立しました。

また、真言宗では大日如来(だいにちによらい)を祀る建物として多宝塔が建設されています。密教が重んじる、積み重ねた祈りの体現ともいえる多宝塔。その佇まいを、ぜひ現地に足を運んで体感してみたいかがでしょうか。